



Junior Chamber International Japan
一般社団法人 ひびき青年会議所



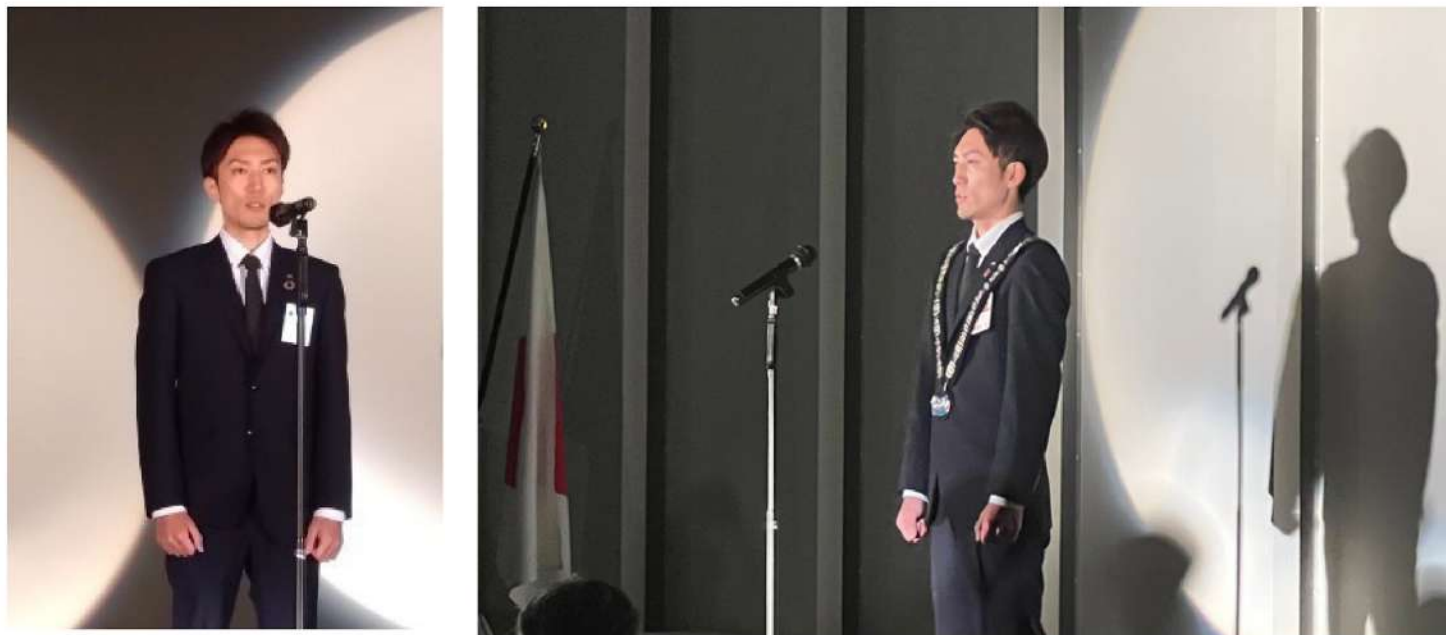
2023年度 スローガン
For the future
～今と未来をつなぐ～



一般社団法人
ひびき青年会議所
新春懇親会



辻理事長 所信



1月7日アートクレフクラブにて、新春懇親会がおこなわれました。ひびき青年会議所としては今年度初めての全体事業でしたが、緊張感ある中でメンバー皆が一丸となり素晴らしい会となりました。

辻理事長の所信演説は1年先だけでなく10年、20年先の未来についての想いも素晴らしく、辻理事長の基本理念である

**失敗を恐れず前向きに
個人の成長がよりよい社会を築く**

という想いと、結びでの言葉である

「変化なくして進化なし 進化なくして成長なし」

という言葉はとても心に突き刺さり、大変感銘を受けました。今年度の素晴らしいスタートが切れたと思います。

懇親会の部





懇親の部では緊張感も和らぎ、様々な場所で新年の挨拶が交わされていました。

シニアクラブの皆様にも壇上に登壇していただき、本田会長はじめとする先輩方から暖かいお言葉をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

メンバーも緊張が少しゆるみ、笑顔も見られとても和やかな懇親会となりました。



1月度例会・総会



1月6日にはななかまハーモニーホールで1月度例会・総会が行われました。各委員長及びメンバーの紹介があり、各委員の活動方針などが発表されました。

審議事項では、今年度の予算案が可決されました。

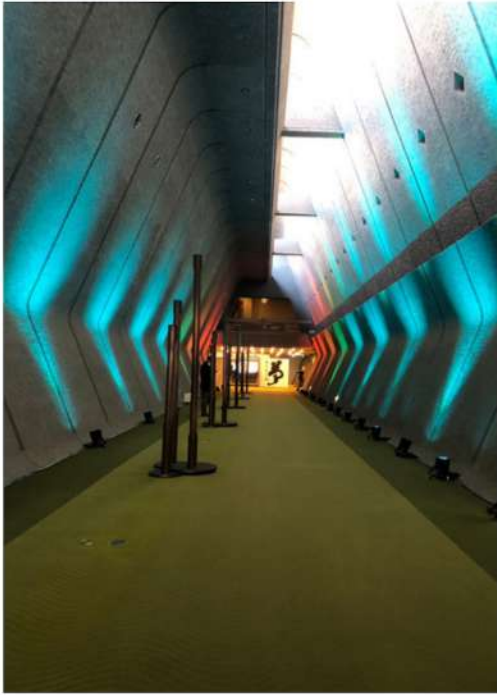
また、ひびき青年会議所の新たな方針として時代に合わせた活動のために育LOM宣言が発表されました。家庭や仕事とJC活動を両立できるようにサポートし、子育てが大変で活動制限があるメンバーなどにも取り組みやすい環境を構築していきます。

育LOMとは

メンバーが家庭や仕事、JC活動を平行しながらも活躍できるように、子育て支援等を積極的に行うLOMを指します。

様々なライフステージにあるLOMメンバーが活躍できる組織環境の構築を通じて、誰もが活躍できる社会の実現をめざします。

京都会議



1月19～22日の4日間を通して、ひびき青年会議所から16名のメンバーが京都会議に参加してきました。

今年は日本の委員会出向者が6名おり、各ブースで活躍していました。

公益社団法人日本青年会議所出向者			
日本青年会議所	組織グループ	JC教育推進委員会	委員長 今住 一章
日本青年会議所	組織グループ	JC未来創造会議	副議長 行正 祐太郎
日本青年会議所	組織グループ	JC教育推進委員会	総括幹 盛田 総平
日本青年会議所	組織グループ	JC教育推進委員会	原 直人
日本青年会議所	組織グループ	JC未来創造会議	河合 祐一
日本青年会議所	組織グループ	JC未来創造会議	黒川 凌雅
日本青年会議所	組織グループ	JC未来創造会議	山本 凌士



メンバーもJCゲームに参加し、各LOMの様々なメンバーたちと交流を増やし、ともに協力し取り組みました。



麻生会頭所信演説では、全国から集まった各 LOMのメンバーが入りきれないほど会場を埋め尽くし、皆、静粛に耳を傾けて演説を聞きっていました。

基本理念である「**夢溢れる未来を描き世界に冠たる日本を取り戻す**」 ~Drive our dreams 日本の魅力で世界を席卷しよう~ は、辻理事長の基本理念と通ずるものがあり、未来へ向けての熱い想いを感じました。

京都会議では、JCのこれまでの歩みや未来に向けての発信、シニアの先輩方たちの残してきた歩みを見せていただくことができ、貴重な経験となりました。

その経験を未来に繋げていけるように、これからもJC活動を発信し続けていかないといけないと気持ちを新たにしました。

2月度活動 スケジュール

1. 2月2日 ……………厄払い
2. 3日 ……………拡大委員会 拡大例会
3. 6日 ……………予算・議案会議
4. 15日 ……………シニア役員会議
5. 15日 ……………常任理事会
6. 22日 ……………理事会
7. 24日 ……………会員会議所

ことわざメモ 有言実行

有言実行という四字熟語は実は造語で、「不言実行」の方が先に生まれた言葉らしく、それをもじって「不言」を「有言」に変えて出来たのが、この「有言実行」という言葉なのだそうです。もとの「不言実行」という言葉は、「不平不満を言わずにやるべきことをやる」という意味合いでした。そのため「有言実行」という言葉は、できて初めの頃は「文句を言いながらでもやるべき事をやれ」という解釈もありましたが、のちに「目標を宣言し、それを実現する」という解釈に定着したそうです。

日本と世界

日本では食べ残しはお店に処理を任せることがほとんどですが、海外では自分が食べ残した物を持って帰る習慣があります。レストランでも、「doggy bag」と呼ばれる持ち帰り専用の容器が用意されている場合がほとんどです。持ち帰りを希望する場合は、店員に「Doggy bag, please」と申し出て、食べ残しを詰めてもらいましょう◎